

平成19年度「魅力ある大学院教育」イニシアティブ  
「生活環境の課題発見・解決型女性研究者養成」教育プログラム  
「国際的FD視察交流研修」報告書

平成20年 1月 21日

奈良女子大学教育プログラム推進委員会 殿

国際的FD視察交流研修について、下記のとおり報告します。

## 記

(以下の報告については、HP上での掲載及び印刷物等として公表される場合があります。)

1. 氏名 <sup>フリガナ</sup>	(視察交流研修企画代表者) スギミネ ヒデノリ 杉峰 英憲  カドヒロ リョウコ 角広 涼子
2. 所属等	文学部 教育文化情報学コース 教授  人間文化研究科 人間行動科学専攻 博士前期課程2年
3. 視察交流研修等の名称	ミルズ大学・ポートランド州立大学における教育・研究改善計画及び具体的な方策の視察
4. 視察交流 研修地・研修先	研修地名 アメリカ合衆国 研修先(名前等) ミルズ大学・スタンフォード大学・ポートランド州立大学 オレゴン州立大学・オレゴン大学 <マイクロソフト社・ワシントン大学・ムスリム・エドゥケーション・ トラスト(小学校)>
5. 研修期間	2007 年 10月 29 日～ 11月 15日

6. 視察交流研修の内容

日	訪問場所		スケジュール	内容	成果
	都市				
10月29日	SF	到着			
10月30日	SF	ミルズ大学	ルイス研究教授 ラボスキー教授 ボイヤー教授・幼稚園ミーティング参加	授業観察・参加 ヒアリング	⑧ ⑨
10月31日		ミルズ大学	ヴィッキー教授ルイス研究教授 トーマス准教授 ジョゼフ教授(学部長)・ボイヤー教授 学生・日本人留学生	授業観察・参加 ヒアリング ヒアリング	⑫ ④ ⑪⑬
11月1日	SF	スタンフォード大学	ヤング准教授 ザオ准教授 医学部長	ヒアリング ヒアリング	①⑨ ⑩⑬③
11月2日		SF⇒PL	ポートランド州立大 学	資料収集	資料収集
11月3日	SeT	マイクロソフト社	デニスさん	視察	⑮
11月4日	SeT	ワシントン大学	デニスさん・資料収集	ヒアリング	⑯
11月5日	OSU	オレゴン州立大学	ケン准教授・サム教授(学部長) ホセイン准教授・シャオユー(学生)	授業観察・ヒアリング ヒアリング	⑥ ⑭⑰
11月6日		オレゴン大学	マックレイン名誉教授 メアリー(プロジェクトコーディネーター) シンシア(プロジェクトディレクター)	授業観察・ヒアリング	②⑤
11月7日	PSU	ポートランド州立大 学	レナ教授 アン(シニアインストラクター) 他多数	授業観察・ヒアリング	⑦⑫
		ムスリム・エドゥケー ショナル・トラスト (小学校)	小学校訪問	ヒアリング	⑦⑪
11月8日	PSU	ポートランド州立大 学	レナ教授 日本人留学生	授業観察 ヒアリング	⑦⑪
11月9日	PSU	ポートランド州立大 学	レナ教授 日本人留学生	授業観察 ヒアリング	⑦⑪
11月10日から15日まで個人別課題研究					

7. 成果及びその他参考となる事項

※6. 視察交流研修の内容の右端の「成果」の項目の詳細

- ① 学問の最前線と授業内容との関係について理論的な示唆を得た。
- ② 学生の興味を判断する視点を獲得した。
- ③ 学生指導上の諸問題へのスタンスについて理解した。
- ④ PBL・IBLによる授業改善についてデータを収集した。
- ⑤ 学生と教員の相互評価システム（ブラック・ボード・システム）の仕組みを理解した。
- ⑥ 具体的な学生による評価の内容をデータとして持ち帰った。
- ⑦ 授業展開における「学生中心」のあり方をビデオ撮影した。
- ⑧ 様々な授業形態を観察した。
- ⑨ 大学院を共学化するにあたっての諸問題を理解した。
- ⑩ 女子大学の意義を再確認した。
- ⑪ インターンシップの実状を掌握した。
- ⑫ 国際的な学問・教育・交流の意義を確認した。
- ⑬ 日本人留学生をヒアリングし、外国における日本人留学生の実状を掌握した
- ⑭ 宗教と教育の関係をインタビューした。
- ⑮ アメリカの大学生の大学意識について認識を深めた。
- ⑯ 大学開放の在り方を確認した。
- ⑰ リカレント教育の実態を掌握した。
- ⑱ 社会への大学貢献の在り方についての示唆を得た。

指導教員の署名

杉峰 英憲